

SHOEI
NEOTECH II

※SRLはNEOTECH IIに含まれません



Bluetoothモジュール



Bluetoothモジュールは帽体後頭部の下線に取り付ける。充電やファームウェアのアップデートに使うマイクロUSBコネクタを装備

DESIGN

デザインもヘルメットフィットを考えた造形だ

左右のボタンユニットは帽体のカーブに沿って湾曲するなど、NEOTECH II専用デザインとなっている。マイクもチークパッドベースに設けられた溝にはめるだけで簡単に取り付け可能。マイクの表裏を間違わないよう、爪の位置をずらした設計となっている



デザインもヘルメットフィットを考えた造形だ。左右のボタンユニットは帽体のカーブに沿って湾曲するなど、NEOTECH II専用デザインとなっている。マイクもチークパッドベースに設けられた溝にはめるだけで簡単に取り付け可能。マイクの表裏を間違わないよう、爪の位置をずらした設計となっている

SHOEI X SENA

SHOEI NEOTECH II
のために作り込まれた
SENA SRL

ツーリングに出かけるときに、インターコムを使うことが当たり前となっている今日この頃であれば、もはやインターコムはヘルメットの一部となってもいいのではないか？ そんなコンセプトから生まれたのが、SHOEIのネオテックII専用で作られたセナの「SRL」だ

写真/荒木優一郎 文/八百山ゆーすけ
問:セナBluetoothージャパン <http://senablueooth.jp/srl/>



SENA
SRL

SHOEIのNEOTECH IIの帽体内にすべてのパーツが収まるように設計されたSRL。Bluetoothユニット、ボタンユニット、スピーカー、マイクをヘルメットの各部に分散して取り付ける

価格:3万6072円
通話時間:10時間(使用環境により異なる)
通話距離:最大1600m(見通しの良いところ)
重量:100g 充電時間:2.5時間

※SRLはSENA製品です。SHOEIの製品ではありません。SENAから販売及びサポートされます



操作ボタン



操作はすべて帽体左下に付くボタンユニットで行う。「+」「センターボタン」「-」の3つだけでシンプルなオペレーションとなっている

マイク

セナがまもなくリリースする「SRL」は、これまでの機能や性能で革新性ではなく、ヘルメットと同時に開発という点で革新的なインターコムだ。SHOEIが初夏から販売を開始する新型のフリップアップ式ヘルメット「ネオテックII」とセナの共同開発によって生まれたSRL。ネオテックIIの帽体各部にあらかじめSRLの装着部が設けられていて、ユーザはダミーカバーと交換する形で取り付けるだけ。SRLの装着を前提にヘルメットが設計されているため、取り付けたときの佇まいは、SHOEIとセナという異なるメーカーが作ったとは思えないほど自然なものだ。特にヘルメットの外觀は、SRLのボタンユニットがちようどヘルメット下端の三角形のデザインアクセントと一体化して、一目した

インターコムが帽体デザインの一部に

POINT

機能は20S同様のパフォーマンス

SRLはセナ・インターコムラインナップの中でも、「20S」とほぼ同等の基本性能や機能を備えている。SRLはモーションセンサーとアンビエントモードを搭載していない点を除けば、8人で同時通話ができる

グループインターコムやオーディオマルチタスクといったプレミアムな機能も共通だ。もちろん、SRLにはない機能を求めるなら、20Sやさらにメッシュインターコムが使える「30K」を使うこともできる



モデル	SRL (3万6072円)	20S (3万6072円)	30K (4万2552円)
インターコム同時通話人数	Bluetooth接続	8人	8人
	メッシュ接続	—	—
グループインターコム	○	○	○
ユニバーサルインターコム	○	○	○
オーディオマルチタスク	○	○	○
ミュージックシェアリング	○	○	○
スピードダイヤル	○	○	○
ボイスコマンド	○	○	○
アンビエントモード	—	○	○
モーションセンサー	—	○	—

POINT

ビルトイン設計でしっかり収まる

NEOTEK II専用設計のSRLは、その取り付け方がスマートなのが最大の魅力。ヘルメット側が、SRLのBluetoothユニット、ボタンユニット、スピーカー、マイクを受け入れる設計となっている。各パーツ

をNEOTEK IIの内装に設けられた窪みのガイドに従ってはめこむだけ。ケーブルも適切な長さになっているため、無用に余ることもない。脱着は専用のサービ

専用マウントで固定もしっかり!



デザインもヘルメットフィットを考えた造形だ

スピーカーはNEOTEK IIのイヤークラスにぴったり収まるサイズとなっている。マイクとケーブルは、チークパッドベースの溝にはめ込んでいけばコードも余ることなく収まる

シンプルな外から見えないインターコムもラインアップ

セナではSRLのほかにもヘルメットに内蔵して外から見えないタイプのインターコム「10U」をラインナップ。SHOEIの「GT-Air」「ネオテック」「Jクルーズ」とアライのフルフェイスモデル向けの4タイプを用意している

10U

対応機種：SHOEI NEOTEK

GT-Air、J-CRUISE

Araiフルフェイスヘルメット用

価格：4万2984円

通話時間：10時間（使用環境により異なる）

通話距離：1600m（見通しの良いところ）

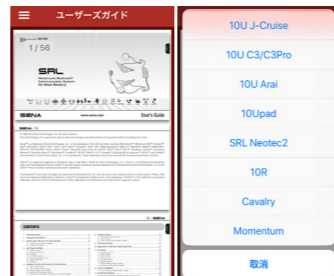
充電時間：約3時間



POINT

アプリでグループ通話も可能

SRLは他のセナ・インターコム同様、専用スマホアプリ「SENAアプリ」を利用することができる。SRLの各種機能の設定だけでなく、グループインターコムのメンバーリストの登録も可能だ。20SのグループリストにSRLも参加可能だ



セナアプリ

対応機種：Android、iOS

20Sや30Kといったハイエンドモデルも選べる

SHOEIのネオテックII専用で作られたSRLは、セナ・インターコムのラインナップの中でも異色の存在だ。ただ、その基本性能や機能は、「20S」と同等だ。20SといえはBluetoothユニットを2個搭載することで、スマートフォンやナビ音声聞きながらインターコム通話ができる「オーディオマルチタスク」が特色。SRLもこの機能を搭載するほか、最大8人で会話ができるグループインターコム機能も備えている。そのため「20S」の仲間とグループ会話が可能だ。ネオテックII専用のインターコムだからといって、機能や性能に妥協はない。通常の取り付けのインターコムも使用可能で、さらに便利な機能や仕様を考へるなら、セナでは個人的なラインナップを多数用意している。20Sなら外部スピーカーから外側の音がスピーカーから聞こえる「アンビエントモード」があるし、「30K」は多くのライダーとシームレスにつながる「セナ・メッシュインターコム」が利用可能。このようにネオテックIIユーザーも、自分の使い方に合わせて、セナ・インターコムを選べる。



チークパッドで挟むケーブル配線

Bluetoothユニット両側に出ているケーブルは無理に帽体と内装の間に押し込まず、内装とチークパッドで挟むように隠すといい



ケーブルの配線もすっきりシンプル

スピーカーとBluetoothユニット間のケーブルは、ケーブルに付いたフックを帽体と内装の間に設けられた専用の隙間に差し込む



Bluetoothモジュールははめ込むだけ

本体にあたるBluetoothモジュールの取り付けは、後頭部のカバーを外し、中のスポンジと入れ換える形で差し込むだけ



合わせ面をスライドして組み込む

ボタンユニットはイヤーカーを取り外し、ガイドに沿ってスライドしながら取り付ける。最後にボタンとツメがロックすればOK

TOOLS

SHOEI専用工具を使ってカンタン着脱

取り付けをアシストしてくれるのが、NEOTEK IIに付属している「SHOEIサービスツール」だ。これを使えばイヤーカーやスピーカーの着脱も、指を傷めたりせずにスムーズにできる。スピーカーにはこの工具を当てるツメも設けられている

